



日本メジフィジックス

<http://www.nmp.co.jp>

テーマ 「診る」そして「治す」核医学

2014年1月に発売された脳疾患診断薬「ダットスキャン静注」の資料を中心に、各臓器の血流・代謝等の機能を画像化するSPECT・PET検査用放射性診断薬や骨転移疼痛緩和の治療薬等に関する資料を展示。



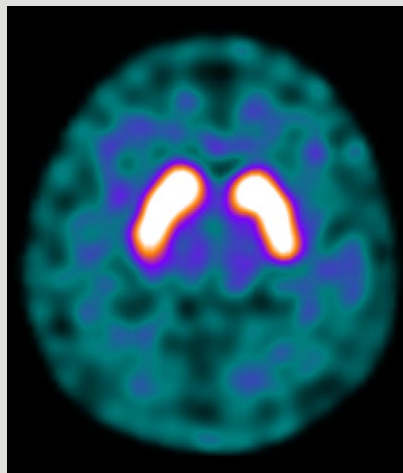
主な展示製品

- ダットスキャン静注
- レFDGスキャン注
- クリアボーン注
- パービューザミン注
- マイオビュー注シリンジ
- メタストロン注 他

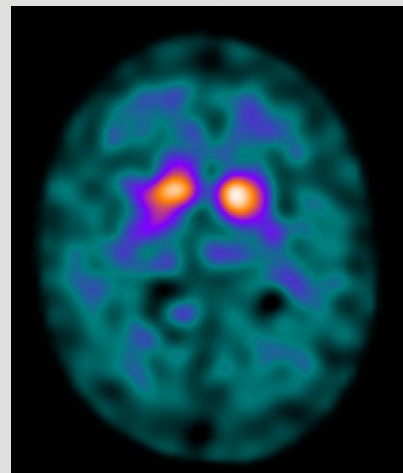
脳疾患診断薬

「ダットスキャン静注」

ダットスキャン静注(放射性医薬品基準イオフルパン(^{123}I)注射液)は、パーキンソン症候群(PS)およびレビー小体型認知症(DLB)の診断に用いられる脳疾患診断薬。投与後3～6時間に1回SPECT撮像をすることで、黒質線条体ドパミン神経終末部のドパミントランスポーター(DAT)の分布を反映する画像が得られる。ドパミン神経の変性・脱落によるDAT低下が画像情報として得られるため、「PS・DLB」の診断精度が向上することが期待される。また、同製品はシリンジタイプのため、操作が簡便で、術者の被ばくを軽減することができる。



健常者



パーキンソン病

※順天堂大学医学部附属順天堂医院 提供